市長と語ろう　タウンミーティング（宇奈月）

平成２３年１１月２２日（火）

市民Ａ

皮切りということで、下立１区町内会のＡといいます。ひとつよろしくお願いいたします。

２点だけ聞きます。先ほどの画面を見せていただけないですか、一番の最後の画面です。

簡単に聞くんですけれども、新庁舎建設、約40億円、当然、今のところは大体の意味だろうと思いますけれども、総務省の試算だろうと思うんですね。私は、地方公務員は好きですけれども、国家公務員、特に高級官僚、大体東京一円なんかで見ておるかと思うんです。そうすると、田舎へ来ると1.2倍ぐらいあるんじゃないかと。できれば、40億じゃなくて１割から２割切った額で、質素なもので効率的な建物を建てていただきたいと。絶対に高級官僚のつくっている総務省の試算は、あくまでも東京一円の単価だと私は思っています。そこら辺をご理解していただいて、ひとつお願いしたいと。それが１点です。

それと、ちょっと余談になりますけど、皆さん、まだ意見がまとまっておらんでしょうから、少し長くなりますけれども、11月13日、県の駅伝がございました。それで、中山教育長はじめ、11月10日には、私、息子が出たんですね。それで、何を言いたいかというと、黒部市と宇奈月町が合併して、ほんとうによかったなと。ある１つの反面から、スポーツを通した反面から、盛大な壮行会をしていただき、皆さん目標を言いながら、６位を目指した駅伝なんですけれども、結果は９位だったと思います。私も、いつの間にかゴールのほうに８キロ歩いて、黒部市を応援していたという事態でございます。こういった若い子供らを育てるという点では、大変すばらしい教育委員会の方々、いろいろ激励やらしていただきまして、ほんとうにありがたい話だったと思います。

今後とも、私もいろんな場面に行けば、何かとこういった、いろんな意味で合併した意味がお互いに知れるということで、何かあれば参加していきたいと思っております。今はこの２点です。後からまたひとつよろしくお願いいたします。

市長

ありがとうございました。

新庁舎につきましては、できるだけ質素で合理的なものを実現したいというふうに思っておりますので、この40億円ということにつきましても、設計からすべての経費を含めた費用でございますので、実際は、建築工事関係につきましては30億円余りというようなことになっておりますので、その中で、建築面積が１万平米の範囲内で実現するというふうに計画しておりますので、こういう時代でありますから、決して華美にならないようにいろいろ注意をしながら、市民の皆さん方にもご理解いただけるようなものを実現したいというふうに思っております。

次に、スポーツ関係、駅伝のお話をされました。黒部市は、新しい黒部市になりまして、スポーツ関係が非常に盛んで活発な市だというふうに自負をいたしております。県民体育大会などにおきましても、今年もそうなんですが、富山、高岡、黒部と、総合的にはそう

いう順位、ちょっと頑張れば富山、黒部というように、高岡にも勝てるようなときもあったんですが、人口規模などからすれば、黒部が常に３位以内におれるというようなことに対しては大変喜んでいるところでありますし、また、そういうことに対しても、子供たちの育成、スポーツに対する育成が大変大事ではないかなというふうに思っておりますので、駅伝などでは少しご注文もいただいておりますが、ぜひ結果が残せるように努力をしていきたいというふうに思います。

事務局

Ａさん、よろしいでしょうか。

それでは、ほかの皆様からもご意見をいただきたいと思います。どちら様からでもよろしいので、どのようなご意見でもいただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

市民Ｂ

２点お願いしたいということで。

新幹線駅周辺の絡みで、駐車場の駐車可能台数というのがどういうふうに割り出されたのかわからないので、その辺を教えていただきたいと。もう一つは、その駐車場に絡みまして、あらゆるところで新幹線絡み、高速道路絡みで、高架橋のけた下利用が結構進んでいるように思いますので、その辺、けた下利用も含めて、駐車場の確保とか、何かお考えになっているのかという点が１点。

それから、都市計画のことについて、かなり市長さんもお話しされておりますが、農村計画をどうされるのかというのは一度も聞いたことがないんですね。この辺、農村の環境について、どんどん過疎化しているのは何でだろう。この農村地域にあっては、過去、黒部川のはんらん等で自分の宅地、農地等が崩壊してしまい、毎年洪水等で流されて、それで生活ができなく、最上の地を求めて高台に一族が上がってつくられた集落もございます。何百年来、土砂崩れ、それから水害がないということで、非常に私から見れば、扇状地もいいものですし、また、富山湾、また、その遠くには能登半島、そして、そこに沈む夕日、それを眺めて、何といいところだろうと、これはよそから来られたたくさんの方々なんですが、こういうすばらしい農村地域の整備、また、宅地造成等が地内で行われておりますが、まさにこういうすばらしいところに宅地造成等を行って、そこに住める、そこへ来て住んでみたい、住みたいという、そういう農村の環境整備等もあってもいいんじゃないか。その辺、どのように市長さんはお考えになっているのか。もし計画があるなら。また、将来的にそういう、今の長期計画の中で、次の５カ年、次の10カ年等で取り組まれていくのかどうかもあわせてお話しいただければと思います。

愛本地区のＤでございます。

市長

まず、新幹線の駅周辺整備の駐車場の計画でありますが、平成26年度末までの予定されている開業までには380台計画をしておりまして、そして、できるだけ早く500台に広げていければというふうに思います。そしてまた、周辺の民間の力で、少し駐車場などの整備

が計画されるだろうということで、将来的には700台程度の周辺の駐車場ができるものというふうに予想しております。

まず、新幹線の利用状況なんですが、１日2,700人ぐらいの乗降客を想定しております。これは、かなり緻密に計算された人数でありまして、今現在の特急列車などの利用者数からいろいろ計算しまして出された人数でありますので、かなり正確なものであるというふうに私は思っております。ただ、新川地域の利用者から想定しておりますが、新黒部駅につきましては、東京方面に新幹線を利用して向かわれるときに、乗降客数を増やすということが大変大事な課題でありまして、それを増やすには、上市町とか立山町とか滑川の方が新幹線を利用して東京方面に向かわれるときに、富山駅へ行かれるのか、黒部駅へ行かれるのか、時間とか費用とかそういう利便性からしたらどっちから乗られるのかと、そういうことにつきましては、新幹線の黒部駅と富山駅の、ある意味では競争というものは大事じゃないかなと。立山町の方が東京方面へ行かれるときに、例えば車で行かれる場合には、富山駅へ行って、限られた駐車場で、しかも、駐車料金の割高なところで乗りかえされるのか、黒部のほうに来られて、低料金、あるいは無料の駐車場などを利用して新幹線に乗られるのか、そういうふうなことにつきましては、利用者の皆さん方の利便をしっかり確保していけば、今の2,700人と想定されている利用者数を増やすことも十分可能だというふうに思っておりますので、そういう意味からしても、駐車場台数というものは大変大事ではないかなというふうに思っております。

次に、新幹線のけたの利用につきましては、ＪＲさんとの協議になりますが、できるだけそういう場所の有効活用などをしていきたいというふうに考えておりますので、その辺はこれからの検討協議になるというふうに思っております。

次に、都市計画ではなくて農村計画をどう考えておるかということでありますが、このことにつきましては、中山間地も含めて大変難しい問題もありますが、まずはこういう田園地帯とか、あるいは中山間地とか高台とか、そういうところに住んでみたいというか、そういうふうなライフスタイルを求めていくような、そういう価値観を持つということが大変大事かなというふうに思います。

旧黒部市内では、今、人口が増えている地区が幾つかございます。その中の１つが田家なんですね。田家は、小学校に生徒が入らなくなって教室の増築も、３年前でしたか、４年前でしたか、増築もした場所です。それは、田家がどこで増えているというと、やはり高台です。阿古屋野までは行きませんが、阿古屋野近くの高台に住宅開発が行われて、そこに若い方々がたくさん住まれるようになって、そこの小さいお子さんが田家小学校なり田家保育所へ入ってきて、教室が足りなくなったということでありますので、そういう高台なり、そういう山間地、田園地帯に住むという方は、まずはそういう高台で家を建てる方が結構おられます。言われるように、高台からの景観といいますか、ロケーションが非常にすばらしいところがたくさんありますので、そういう誘導をすれば、そういう住宅開発なり高台に住む方もこれから十分増やしていけるのではないかなというふうに思います。

それと、農村景観を守っていくということは、また別問題、農業は今のところだれでもやれるわけではありませんので、中山間地の農業をどうやって守っていくかということにつきましては、農家の皆さん方と十分協議をしながら、いろんな取り組みを進めていかなければならないのではないかと思います。ただ、Ｂさんのところもそうなんですが、有害

鳥獣等々の問題があって、山手へ行くとどうしても悩ましい問題もたくさんありますので、景観とか住みやすさだとか、そういう気持ちはいいんですが、どうしても猿やイノシシや何とかが出てきたりして、なかなか農作業をするにはどうなのかなという場所もありますので、そういうことの対策もこれから考えていかなければならないのではないかなというふうに思っております。

事務局

Ｂさん、よろしいでしょうか。

ほかの皆様からもご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

市民Ｂ

もう一点、先般、小水力発電のサミットが開催されて、ほんとうに盛大なサミットで、ほんとうに私もうれしく思いました。昭和58年、農業用水を使った小水力の発電の制度を、当時、私、制度化する係長として頑張って、ようやくこの制度をつくり上げたわけでございますが。今、先般のサミットを見て、ほんとうにここまで来たかなと、ほんとうに苦労したかいが、寝ずに食べずに頑張ったかいがあったなと、ほんとうに涙が出るぐらい感動いたしました。

さて、その小水力発電なんですが、企業のパンフレット等を見ますと、非常に水車、発電機等が発達してきておりますとともに、省電力化された電灯等も開発されており、非常に技術が発達したということで感心している次第でございます。片や、海外に目を向けますと、農業用水を使った発電機が一家に１台という国もございます。ただ、中山間地域のところになりますが、一家に１台で、当時は12ボルトの車用の蛍光灯を使って照明をしている家庭がほとんどでございましたけれども、最近はＬＥＤ等が発達してきて、もっと省電力で電灯がともせるという時代でございます。今後、もっと技術が発達するだろうと思いますが、小水力のこういう水力を使った発電の、これは１つは観光資源にもなるかと思います。一家に１台というんじゃなく、可能性のあるところには簡単につけて、ガーデニングのライトではございませんが、そのようなものを道路と歩道の間につけて、非常におもしろいまちづくりもできるんじゃないかということで、単なる、そのとおりになるかどうかわからないアイデアでございますが、技術が発達すればそういうことも可能になってくるんじゃないかな。一家に１台の発電機というのも考えられる地域もございますので、非常におもしろいアイデアじゃないかなと思って、ちょっと提案させていただきました。

市長

小水力発電サミットでごらんになった方はおわかりなんですが、小型のマイクロ発電で地元の企業がかなり高度なものをつくっておられます。テレビなどでもごらんになられる方がおられると思いますが、全国放送で地元の東洋ゼンマイさんが、マイクロ発電でぜんまい式で非常に少ない水量で電気を起こせるということで商品開発をされて、今、全国的に話題になっているようなものもありますし、地元の鉄工所さんが小さな用排水路に簡単に沈めて電気をつくれるような装置も、現物も私は見ましたが、かなり精度が高度に完成に近いものが作られていたり、やはりこういうものが地元産業振興にもつながっていくの

ではないかなというふうに思いますので、これからの商品として注目がなされるのではないかなというふうに思います。

その使い方につきましては、今ほどありましたように、マイクロ水力ですから100ワット以下のものですから、いろんな使い方を工夫できますので、それをうまく使えば、水が豊かな黒部市の１つの特徴というか、そういう観光資源にもつながるような１つの大きな目玉になっていくのではないかなというふうに思います。

ただ、一方で、市が今やっております宮野用水発電所などにつきましては、問題は、大きな投資が必要ですから、採算性というものが非常に大事ではないかなというふうに考えておりまして、宮野用水発電は、かなり導水管が、ご存じのように、さっきありましたように、右岸から左岸へ約50メーターほど、今現在、落差で落ちているものをそのまま利用して水車を回して発電するという仕組みですから、かなり効率的にできていますので、売電単価が10円ほどですが、それでも採算がとれるという計算の中で始めましたので、これはこれでいいと思うんですね。

今、国が再生可能エネルギー法の中で電力買い取りということで決めました。水力発電で起こされた電気を、なら幾らで国が買うのかということなんですが、今現在は決まっておりませんが、想定は大体15円から20円の範囲内だろうというふうに言われております。今、太陽光が、48円が今度コストが下がったということで42円になったわけですが、水力は大体15円から20円。ですから、その範囲内でやらないと、基本的に私は、市などが取り組む事業としては、それはまずいだろうというふうに思っておりまして、その範囲内で発電できるような効率的な所については、これからも積極的にやっていきたいなというふうに思います。

今現在、県内でも幾つも小水力発電の計画がありますが、大体20円以上単価がかかります。１キロワットを起こすのに30円とか40円かかって、そして、１億かけて、10キロワットの発電をするとかというところも県内でもありますが、10キロワットを起こすのに１億かけて、40円、50円のコストをかけてやってどうするんだという。でも、そこは教育的観点とか観光の１つの目玉にするとか、景観のこととか考えて、常願寺川の近くでやられる、やっておられますけれども、そういうところもありますが、黒部市とすれば、これだけ豊富な水を利用するんですから、市が行うものについては効率を考えながら進めていきたいというふうに思います。

ただ、先ほどの東洋ゼンマイさんとか、そういうマイクロ水力につきましては、じかに、そのまま、買電で使える可能性がありますので、そういうものについてはまたうまく利用していきたいなというふうに思います。

事務局

Ｂさん、よろしいでしょうか。

せっかくの機会でございますので、ほかの方々からもご意見をいただきたいと思っております。ご意見はほかにございませんでしょうか。

市民Ａ

今度は若干まともな話をしたいと思います。

商業の振興なんですけれども、大変皆さん、経済状況も経済状況ですので、こういった状況になるんだろうと。今日、富山県内の高校生卒、内定率70％、10人に３人の方が就職につけないよというような意味合いだろうと、私、単純に勘定しますけど、黒部市でも人口増というのは、常に若者が残る地域づくりが大事なんだろうと。その中には、商業発展、商業関係、特にＹＫＫさんを中心とする、今言われている東洋ゼンマイさんとかそういったところが地元雇用に力に入れていただければ、もちろん観光振興もございますけれども、そういった中で若い方々が残れると。というのは、黒部市のほうはまだ高校の就職率は高いと思います。しかしながら、県内を見ると、若い方の就職率がこういうふうに下がってくると、もちろん大学生はもっと下がるだろうと、そういうふうに考えますときに、商工業には特に力を入れていただきたい。それが１点ですね。

それと、道路網をひとつ、ここに、マイナスになっていて、これは別にどの道路がどうとかそういう話ではなくて、黒部市で、私、勉強不足で大変申しわけないんですけれども、私ら町内会では、自治振興会から要望がある322のうちの、細かな小さな道路の改良、そういう話だろうと思うんですけれども、全体的な道路網の話としては何か市の中で、当然、国道、県道、市道となるわけでございます。ところが、国道があればアクセス道路が要る、県道があればアクセス道路が要る、そういったものが市にかかわってくるというのがあるんだろうと思いますけれども、大きな道路計画網について、策定委員会なり審議会が、何かそういったものがつくられてやっておられるんじゃないかと思うんですが、それで、年次計画の中に大きな道路網ができていくんだろうというふうに考えていますけれども、どういった審議会があって、例えば、後期には当然新幹線もあるんだろうと思いますけれども、私、個別のところの話では言いませんけれども、審議会とかあって、こういった方向で策定していると、それで年次計画に入れていくんだということをわかるようにお願いしたいと思います。

以上です。

市長

ありがとうございました。

まず、商工業の振興につきましては、大変大事なテーマでありまして、先ほど、高校を卒業される方で就職希望の方の就職内定率が70％台、1,800人ほど県内で希望されている中で、1,300人ほどが決まったという話だと思います。特に黒部市の場合には、工業につきましてはかなり活発にやっておられますので、そういう就職先は豊富にあるんだろうというふうに思います。

ただ、残念ながら、さっきもありました、商業振興が非常に弱いなというふうに思います。なかなか商業、サービス業に従事される方が少ない。それは、一方では、ものづくり、工業が発達しておるものですから、雇用先、勤め先がそういうところでしっかりしたところがたくさんあるものですから、なかなか商業比率がそろっていかないのかなというふうには思いますが、やはりそういう商業振興は非常に大事なテーマでありますので、先ほど言いましたようないろんな支援もしておりますが、これからもそういうふうな支援を拡充していく必要があるのではないかな。そうしなければ、中心市街地の中の商店街や、宇奈月温泉などの商店街がこれからも疲弊していくということになりますので、ああいうとこ

ろが暗いとなかなか活気づかないということがありますので、ぜひ、そういうことを志す人の応援はこれからもしっかりしていかなければいけないのではないかなというふうに思います。

道路網につきましては、基幹道路網の計画を立てておりまして、それに基づいて整備を進めております。今、黒部市が特に重要と考えておりますのは、とにかく新幹線開業までには８号バイパス、魚津江口から黒部古御堂までのこの間、7.3キロをとにかく供用開始してほしい、完成させてほしい、これが第一番です。それから、８号バイパスから新幹線駅までの背骨道路、新駅中新線を整備すると。そして、その新駅から宇奈月方面に対する黒部宇奈月縦貫道としての延伸をどうするかということも大変大事ではないかなというふうに思います。この大きな道路をまず計画どおり進めるかということが大事でありますので、そのほか都市計画道路、いろいろ重要なところがありますが、それらにつきましては計画的に進めてまいりたいというふうに考えております。

事務局

Ａさん、よろしいでしょうか。

ほかの皆様、どうぞよろしくお願いします。

市民Ｃ

ご苦労さまです。幾つか思っていることを申し上げながら。実は私、非常に心配していることが１つあります。総合振興計画後期の部分のポイントは、共生、活力、安心ということだったわけですね。

そこで、まず１点目は、北陸新幹線に絡んで、私は直接影響はないわけでありますが、並行在来線対策の協議、調整ということ、具体的には見えていないと思うんですけれども、私たちの暮らしを見ておりますと、安心できる暮らしかどうかということについては個々それぞれあると思うんですが、非常に不安を感じているのが、第三セクターというふうに移行になれば、当然市の財政の持ち出しが必要になってくる場面もあるのではないかなということを大変懸念しているわけですね。

そうすれば、例えば、せっかくコミュニティタクシーなど、かなり苦心をしながらご配慮していただいておりますけれども、しかし、今の並行在来線の市の負担増ということになった場合に、私たちの安心・安全な生活に支障が出るのではないか。それは、例えば負担増、いろいろなサービス、先ほど、北陸で１番で、全国では27位だと、総合では言われていましたけれども、私は、もっと上の部分がきちっと住民サービスの低下につながらんようにしていく中で、協議、調整にぜひ臨んでいただきたいと思いますし、本来ならば、きれいごとを言うような気はないのですが、これは公共交通として、ほんとうは国、あるいはＪＲが責任を持って在来線を維持していくということが非常に大事ではないかなと思っているわけであります。これが１点目。

２点目は、実は、23年度で水と緑の森づくり税が一応終わりましたんですが、24年から28年度までの５年間、延長されるということになりました。そこで、非常にアンケートの中でも満足度の高い、自然環境の保全と森林環境の保全の活用、このことについて、ぜひ後期の部分の中でこれと抱き合わせにして、例えばの話、市のご配慮で電気柵も下立地

区の場合、名前を申し上げませんでしたが、下立地区も実施をしました。そして、里山再生整備事業も実は実施をしておるわけで、大変ありがたい施策だと不断に思っているわけですが、しかし、こういうものはすべて完璧ではないわけなんですね。住民の私たちもいろんな対応をしながら、この効果を高める努力もしていかなければならないわけであります。

当然それはしていきますけれども、しかし、住民だけではできないエリアがあります。例えば電気柵の話になりますと、せっかくつくって設置をしたとしていても、下立地区の場合、山手のほう、多雪地帯である。それから、スキー場でやむなく山林内に電気柵を設置しなければならないということになれば、当然、重機などによる維持管理においての支障がかなり大勢になっていくわけだなという懸念しております。

先ほど言いましたように、我々は体を使っていくことについては惜しまないわけでありますが、算じて何百万もかかるようなお金をみんなでどうするかということについてはできないわけで、ここらあたりについては、今言いましたように、水と緑の森づくり税が幸いなこと、５カ年延長になることを十分考えていただいて要望しております。でも、私は悪いことばっかり言っているわけじゃないので、例えば、里山再生整備をしてボランティアを育成する、そうすれば、今まで森林に対する意識が低かった住民の方々でも、明るくなったなとか、きれいにせなならんなという、そういう意識のことは効果として十分あるわけであるので、ここらあたりも地区に十分踏まえていただいて、何とか考えていただきたいなと思っています。

事務局

Ｃさん、申しわけありませんが、今の発言が長いので、まず２点お答えさせていただいて、その後からということでお願いいたします。

市長

ありがとうございました。

まずは、並行在の関係につきましては、言われるように、過度な負担等にならないように気をつけていかなければならないというふうに思います。今、どういうような計画になっているのかといいますと、概要を言いますと、並行在の初期投資が想定されていたよりもかなり増える予定であります。それは、新型車両に相当数入れかえた後、ＪＲから移管されるということで、初期投資が約180億円程度になるのではないかなというふうに言われております。

そこで、新会社の出資なんですが、初期投資の約２割を出資で集めるということであります。そうすれば、約60億円程度を出資で集めようと。それを県と15市町村、そして、民間ということであります。県の提案につきましては、６・３・１にしようということを言っております。６割は県、３割は市町村、そして、民間が１割ということでありますが、我々市長会とすれば、もう少し考えてくれということで少し押し戻しておりますが、いずれにしても、その辺は数％の押し合いになると思いますので、そういうことからすれば、黒部市が初期投資に対して幾らぐらい負担しなきゃいけないのかといいますと、私は、そんな大きな金額にならないだろうというふうに思います。具体的な数字はまだまだこれか

ら詰めなきゃいけないので、言えるような段階ではないんですが、初期投資については、１億以下ぐらいの数字に黒部市の負担はおさまっているのではないかなというふうに思っております。

それよりも実際の運営の赤字の負担、これがどうなるかということのほうが大変重たい話ではないかなというふうに思います。初期投資の出資の部分は、県内15市町村全部でやりましょうということで話はついておりますが、今度、運営の部分につきましては、実際、並行在来線が通っていない地域も全部で赤字分を負担するというのは、なかなか合意するのは難しいのではないかな。私は、でも、基本的には県民全部が使う並行在来線ですから、ある一定の基本的な部分についての負担は、私は必要だというふうには思っておりますし、そう主張しておりますが、ただ、全体的に大きな部分につきましては、沿線の市町で負担するということが多くなるのではないかなと。

それと、もう一つ、新聞等に事が出ておりますから言いますと、新幹線に関する固定資産税が、たくさん入ってくるところはたくさん負担してほしいというようなことを、固定資産税にまで県が、知事が固定資産税なんて言葉を使っていますから、大分危ないところに来ているかなというふうには思っておりますが。

ただ、我々とすれば、その固定資産税をある意味では期待しながら駅周辺整備を行ってきたわけですから、そういう意味では、この後、期待しているそのところにまで手をつけられるということについては、これはしっかりとこちらの考えを言っていかなければならないのかなというふうに思います。そういう意味では、並行在来線は、並行在来線になっての利用者の皆さんの利便とか快適性、いろんなことについて、サービスの向上についても言っていかなきゃいけないんですが、この費用負担についてもしっかりと、これからも県にしっかりと言っていかなければならないのかなというふうに思っているところであります。

次に、水と緑の森づくり税のことにつきましては、おっしゃるとおりでありますので、今の総合振興計画の中でも、里山の再生整備などについてはしっかりとやっていこうということで明記されておりますし、大事な問題だというふうに思います。電気柵等をやっていただいてありがたく思っておりますが、多雪地帯ではいろんな問題があるということも理解しておりますので、そういうところをどうしていくかというようなことについては、これからも相談をさせていただきたいなというふうに思います。

事務局

それでは、ほかのご意見もいただきたいと思っております。Ｃさん、もう一点のほうから言われていきますか。

市民Ｃ

もう一点というか、もう二つだけよろしいですか。申しわけございません。

アンケートの中で、これは後期の振興計画にも起因するわけですが、観光の部分がマイナスだと市長もおっしゃるわけですが、先ほどＢさんも、眺望の関係だとかいろいろおっしゃられたわけですが、今年の10月20日に下立に下立霊水という比較的隠れた、生地には負けますが、隠れた霊水の名水が実はあるわけで、10月20日に、新潟市の、私より年寄り

ですけれども、夫婦でマイカーで水酌みに来ておいでになられました。インターネットで調べたということだったので、非常に私も黒部市へお越しになられたこと自体もうれしかったんですが、下立の霊水に来られたこともなおかつうれしかったです。ただ、新潟の方々がおっしゃられるのは、例えば新幹線が、宇奈月温泉があるのはわかるとおっしゃられたわけですが、アクセス、宣伝、道路に表示をするとか、利用する方々、インターネットにせっかく出されておっても、どこへ行っていいかわからないという、そういうことも実はありまして、ここらあたりはこれからの黒部市にとっても大変重要なポイントになるのではないかなと思っておるんですが、宇奈月も生地もよくなってもらわなければならんのですが実は、看板やそういうところもできるだけＰＲできるような姿勢でもあれば、必ず黒部市にとってプラスになると思います。

それから、もう一点、家庭教育のこと、先日、市長もおっしゃられたわけであります。先ほど出ておりましたが、教育長もおいでになられますけれども、いろいろ子供たちと一緒に活動しておるんですが、ところが、最近、学校教育のほうもゆとりから学力本位ということで変わりまして、それと、子供たちも、先ほど市長もおっしゃられたように、スポーツ、子供たちがスポーツをやっていることは非常にうれしいんですけれども、例えば自然体験などの親子触れ合い活動なんていうのは、私は、ほんとうに今の中でできるのかどうかということを非常に疑問に感じるんですね。書くのは、こういったところにいっぱい書けると思いますが、やるならやるのに市長が腹をくくっていかないと、結局これは地域の活性化につながらないのではないかなと思いますので、例えば、第３、家庭の日は部活動もみんなやめて、そういうような活動の日に充てるとかで後期の振興計画をやって、きちっと反映できるようにしていただきたいなと、そのことがいいのではないかなと思っていますので、よろしくお願いしたいと思います。

市長

下立の霊水ですか、申しわけないんですが、あまり現場をよく理解していないので、一度拝見させていただいて、また一緒にＰＲしていきたいと思います。写真は見たことがありますけど。

自然体験のことについては、実は、ちょっとずれますが、昨日、学校給食の日で、地場産ということで、各小学校で一緒に給食を試食させていただいたんですが、中央小学校へ私は行きました。中央小学校の生徒に、あいさつのところで、農業体験をしたことがある、要は家で田んぼをつくって手伝っておるかと言って、手伝っておる者は手を挙げてくれと言ったら、１割いませんね、中央小学校で。大布施地区ですね。私も大布施ですから、大布施で実際家で田んぼを作って、その手伝いをしている子供は、もう１割いないんじゃないかな。それはほとんど都会の子供と一緒です。

今、都市農村交流なんかで、東京千代田区から子供たちが来て、黒部の子供と一緒に農業体験とかいろんな、漁業とか釣りとか体験活動をやっていますが、一番気にしているのは、地元の子供が田んぼを手伝ったことがないし、経験したことがないしという子供がものすごく増えているのではないかなというふうに思いますので、そういう農業体験とか自然体験とか、そういうようなことを地元の子供たちにどうやってさせるかという、やっぱりここは一工夫せんならんのやないかなというふうに思いますので。

たまたま僕の横に座っておった男の子に、田んぼを手伝ったことが、要は食材としての野菜とか家畜だの、果樹とかいろんなものが出ていて、それをどうやと聞いたら、田んぼへ行ってそういうことを手伝ったことはないと。しまいに、リンゴが４分の１ほどですか、皮をむかないで切って出ておって、家でこのリンゴの皮をむかないで食べたことがあるかといったら、ない。リンゴの皮をむいたことがあるかと言ったら、むいたことがないと。何でやと言ったら、包丁を使うなとお母さんが言うと、こういう話ですよね。ちょっと心配になるなというふうに思いますので、自然体験などして、ロープを張らせたり、いろんな川だとか山とかそういうところで、いろんなそういう自然体験をさせるということが子供たちにとっては大事ではないかなというふうに思いますので、今言われるようなそういう、家庭の日がいいのか、ある時期を決めて、何かそういう取り組みを積極的にやることがいいのか、それは教育委員会を含めて、少し工夫して考えていきたいと思います。

事務局

Ｃさん、よろしいでしょうか。

ほかのご意見、ご要望等ございましたら、よろしくお願いいたします。

市民Ａ

１つ小水力の話でございますが、あれは私も大変すばらしいことだと思います。ただ、１つ不服があるとすれば、下立１区というのは、ちょっと小さい話で申しわけないです、これはまた農林整備課ですか、そちらの話をしますけど、鉄管路が直接、下立１区の部落に雑用水が入っているんですね。雑用水が傷むと部落で修理しているんです。当然、部落の財産でございますから市には頼っておりません。ただ、今回みたいに３回も、あれだけの時間をとめて圧をかけられると、私らが実際に負担してやっている鉄管路が、古くなっている部分もあります。しかしながら、愛本堰堤の途中、堰堤のほうからうちの部落に入っている、それは皆さん水道じゃなくて雑用水なんですね。それは自分らで傷みは直しているんですね。今まで100万、200万の町内会費を使っております。

そういったことのお話の中で、ただ、宮野用水が止まりますよの話しかなかったものだから、部落としては、当然鉄管路の許可をとっているのに、どうして何も話が出ないのかと。業者さんを責めればいいのか、役所を責めればいいのかと。私自身は役所におりましたからそうは考えませんでしたけれども、部落の中には、圧がかかると古いものは飛んでいきます。常態は２カ所持っております。それを直すと100万や50万はすぐかかります。それは市に頼むと部落の財産やと言われるのはわかっていますから、当然自分らが出さなきゃならないんですけれども、今回みたいに長期的に３回やられると、どうしても圧がかかって等がございました。それで、市長さんに直してくれと私は言うつもりはございません。ただ、そういった話が必ず出るやにも、そういったことをおそらく把握しておられると思うんですね、市のほうでは。それで、なぜ相談がなかったのかと、それが１つ、１点不服です。

それと、私のほうから言うのは大変失礼なんですけれども、市民サービス課の方については、何かあるたびに現場に走っていただいて、大変ご苦労をかけましたし、また、しっかりやっていただいております。私らは、黒部の市の庁舎へ行くことはほとんどございま

せん。宇奈月庁舎のほうで相談するわけですけれども、市民サービス課の皆さんは現場のほうへも走ってくださいますし、そういったことには感謝していますけど、ただ、今回の小水力は大変賛成しますけれども、くどいようですけれども、そういった話もなく、広報１枚で３回とめますよと。今回、また12月５日から宮野用水がおそらくとまるんじゃないかと思います。雪のことも大変心配でございますし、その辺も、当然仕事ですからやってもらわなきゃならない大事な仕事でございますから、つなぎの最後の工事になるんじゃないかと思いますけれども、そういったことをひとつ、部落にも迷惑をかけている件もあるということのご理解をひとついただきたいと思いますので、今後ともひとつよろしくお願いいたします。

市長

小水力発電の関係につきましては、農林整備課のほうで担当させていただいてやっておりますので、市民サービス課などとも連携しながら、その辺の状況の確認、把握について努めていきたいというふうに思いますので、ご迷惑をおかけしたということでありますが、申しわけなく思いますが、十分注意してやらせていただきたいと思います。

事務局

Ａさん、よろしいですか。

定刻のほうまであと数分ということになってまいりましたが、まだご意見をいただきたいというふうに思っておりますので、ご意見のほうをいただければというふうに思います。いかがでしょうか。よろしいですか。奥のほうの方々で何かお話しされておるみたいですけど。よろしいですか。

市民

お願いなんですが、協働のまちづくり事業でございますが、ぜひこれは普及、啓蒙等、また、説明、先進地のチラシ等を、先進地のそういう事例等なんかを広報に織り込んでいただくとかやっていただけたらなと。概念のほうは私もわかっていて、こういうものをまちづくり協働事業としてやりたいなというのもあるわけなんですが、なかなか地域の方々の理解が進んでいないということで、こういうタウンミーティングも活用して、まちづくり協働って何なのか、どういうものなのか、こういう事例があるよ、こういう地域でこういう事例があるよとかというようなものも、普及するようなひとつ何かの機会をつくっていただきたいというふうに思っております。これも地区の団結力アップにもつながるように動いております。かつコスト縮減にもつながると思いますし、ぜひこれは普及するようお願いしたいと思います。

市長

総合振興計画のまちづくりの基本理念が、市民参画と協働によるまちづくりということであります。大変大事なご意見だったと思いますので、もう少し具体的に、どういう取り組み方をすればいいのかというようなことについて、わかりやすい、自分たちが実行しやすいような、そういうような資料等を皆さん方にお示ししていきたいというふうに思いま

すので、またよろしくお願いしたいと思います。

事務局
　それでは、多少早いんですが、これまでご意見をたくさんいただきましたが、予定の時間ということにさせていただきまして、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいと思います。

――　了　――